



プロバスだより

第323号

2022年10月13日発行

編集・発行：情報委員会

東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2022～2023年度 テーマ

プロバスライフを元気に楽しむ すこしずつ動きだそう

第 323 回 例会

日 時 令和 4 年 9 月 8 日 (木) 12 : 00 ~

場 所 八王子エルシィ

出席者 40 名 出席率 83%

(会員総数 51 名 欠席 8 名、休会 3 名)

1. 開会

野口例会委員長

第 323 回例会開催を告げ、配付資料の確認が行われた。

2. 会長挨拶

池田会長

8 月例会は残念ながらお休みでしたが、みなさんお元気なご様子でなによりです。

ようやく秋の気配が見えてきて、11 月の全日本プロバスクラブ協議会総会・大会も近づきました。

後ほど実行委員会からご案内がありますが、協議会について少しお話しをさせていただきます。

ご存知のようにプロバスクラブは各地のロータリークラブを親として生まれています。当初は個別に活動していましたが、横の繋がりを持つべく 2004 年に全国協議会が作られました。各地のクラブの情報収集や隔年の総会・全国大会で親睦を深める役割を担っています。

この協議会の活動を通して、私たちは各地のクラブの存在や活動を知ることができます。

この秋には、長年ご尽力された北九州クラブの後を受けて、八王子プロバスクラブが会長クラブになる予定です。田中新会長を支えて私たちも協力していきたいと思います。まずは 11 月 24 日の総会・大会にご参加ください。全国からのプロビアンの皆さまとのよき出会いを大いに楽しみましょう！



3. ハッピーコイン披露

持田副会長からハッピーコイン 20 件の披露がありました。(4～5 ページに掲載)

4. 卒寿のお祝い

竹内賢治会員が 90 歳の卒寿を迎えられましたので、プロバスクラブよりお祝金を贈呈しました。



5. パースデーカード贈呈

先月休会のため、8 月と 9 月に誕生日を迎えた方々です。8 月は竹内会員、9 月は馬場会員、野口会員でした。



写真左から馬場会員、会長、野口会員

6. 9 月のラッキーチャンス

今月のラッキーチャンスの当選者は、田中会員、岡本会員、濱野会員でした。

7. 幹事報告

皆様、今日、本日は大変にご苦勞様です。私の方より何点かご報告させていただきます。

・8月の例会はコロナ感染防止のため中止となりました。そのため、例会資料を郵送でお届けしました。その中に、新しい役員構成表が入っていたと思います。これは7月の定期総会で田中会員が全日協担当役員として、本クラブの理事に就任しましたので、その訂正版として改めて配布したものです。合わせて会員のメールアドレス表も配布しました。訂正などありましたらお知らせください。

・本日の例会開催については、理事会での協議の結果、「コロナの感染状況が減少傾向にあり、コロナ対策を十分に行ったうえで開催」との結論を得たものであります。

・今月から少しずつ各委員会も動き出します。会員・研修委員会では、先ず今日から卓話が始まります。今日は磯村先生の卓話です。また、今月から老年研究会も始まります。地域奉仕委員会では、来年の音楽祭に向かって動き始めます。また、11月に開催予定の2022東京八王子総会も、あと2ヶ月と迫ってきました。宇宙の学校も今年は、規模は縮小されましたが、予定どおりに進んでおります。

いろいろとありますが、すべてのイベントを全員で協力して盛り上げていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

8. 各委員会活動報告

(1) 情報委員会

河合委員長

・プロバスだより第322号をお手元にお届けしました。今月号は8月例会が中止となり、4ページ建ての誌面となりました。8月例会で予定されていた卓話「昭和一桁生まれの会員による～77年前の終戦日のあなたは～」は、同趣旨で原稿を寄せていただきました。6人の会員の方々の「8月15日」の追憶をお読みください。

・8月のホームページへのアクセス件数は381件でした。引き続きホームページの改善・充実に取り組みたいと思います。

・プロバスだよりの誌面を会員の方々の原稿で飾りたいと思っておりますので、ジャンルを問いませんので投稿してください。

(2) 会員・研修委員会

杉山委員長

本来ならば8月例会でご披露する積りでしたが、

コロナ休会となりましたので本日改めて、今年度の研修委員会事業として「八王子老年研究会PJ」をご説明致します。

本年度のテーマは、3年後の2025年には65歳以上の高齢者で5人に1人の割合の患者数、と言われている超高齢社会の難題「認知症」を取り上げます。

PJの年間計画の概要はお配りした資料の通りです。第一回9月29日(木)(大横保健福祉センター会場)の講師は平川病院の平川淳一院長先生。

第2回10月27日(木)(八王子市学園都市センター会場)の講師は八王子市福祉部高齢者福祉課長の富山佳子課長です。

以下12月、1月、2月、4月の開催予定です。資料には研究会にご参加いただける会員さんの登録用紙を付けておりますので奮ってご参加いただければ幸いです。

(3) 地域奉仕委員会

馬場委員長

1. 「音楽祭」の実施

「小・中学校音楽祭」(仮称)の検討を始めた6月時点で、教育委員会からのアドバイスもあり、7月に「音楽祭」への参加募集を行った。

その結果、参加申し込み校は9校(小学校4校・中学校5校)あり、分野別では合唱4校・吹奏楽系5校となった。

・本年度事業として、この9校の参加により、2023年3月19日(日)いちょうホール大ホールにおいて「音楽祭」を開催する。

2. 「小・中学校合唱祭」の開催

八王子市における音楽活動の実態を踏まえて、2023年度からの地域奉仕活動の一環として「小・中学校合唱祭」を開催し、音楽活動の振興に寄与する事業として位置づけることとした。

(4) 交流担当

一瀬理事

・「東京八王子2022」の参加者見込み数は7月例会時の報告通り大会参加127名、高尾山エクスカージョン53名。これに八王子からの参加を加えて目標の180となる予定。当クラブの会員の皆様には基本的には全員参加を是非お願いしたい。

・財政面からは八王子観光コンベンション協会のMICE助成金制度への応募申請を行った。条件さ

え揃えばかなりの助成が見込める。また懇親会用のお酒類は会場持ち込みが可能なので、ビールを除き、何でも結構ですからご奉仕をお願いします。

・大会交流会では「わがプロバスクラブ」というテーマで3クラブのみプレゼンを予定し、その他のクラブは時間の関係で誌上参加の形をとる。その資料のためのアンケート用紙を全国各クラブに発送し現在回収中。

・9月下旬には全国各クラブに正式な案内状を送付し参加者の氏名を確定する。

・大会の記念品としてシニアダンディーズのCDが完成した。

・8月31日に東京参宮橋にて全日本プロバス協議会の新旧合同理事会が開催され、当クラブから常任理事である田中会員、飯田会員そして一瀬が出席。加えて事務サポートとして持田会員も参加。この理事会において11月総会の議案が最終的に確認され、さらに持田会員から「東京八王子2022」の進捗状況についても報告した。

9. 宇宙の学校スクーリングレポート

令和4年度八王子「宇宙の学校」は、3年ぶりに9月4日八王子学園八王子中学校・高等学校会場と9月18日に教育センター会場で開催されました。

9月18日の教育センター会場は台風14号の影響で午前中は大雨でしたが午後子供達が来校する頃には雨もやみ、15組の親子が元気に参加されました。

開校宣言で幕を開けた今日のテーマは「熱気球を作って打ちあげよう」でした。親子協力し合って材料のポリエステルシート(厚さ0.01mm、大きさ150cm×90cm)の三辺をシーラーで接着して袋状にして



空気取り入れ口を作り、気球に絵を描いて完成です。

体育館で行われた「気球の上げ実験」は、どの気球も高い天井まで打ち上げることができ、参加者は皆大喜びでした。(情報委員会・有泉委員)

10. 卓 話

現代社会の盲点 教育現場からの発信

ぼうず教育実務研究所 代表 磯村 元信様

講師紹介 都立秋留台高校校長、都立八王子拓真高校校長等を14年に亘り歴任。学校運営の改善や不登校の解消等に多くの成果を挙げた。現在、地域の不登校、学び直し、就職の応援団等を実践する「ぼうず教育実践研究所」代表として、実践活動、講演活動に奔走されている。



この講演記録はレジュメのデータを中心に講演の一部をまとめたもの。

1. データから見た「教育・日本の危機」

◎19万人～小学校・中学校の不登校が19万人を超え、増加傾向にある。退学や不登校から「引きこもり」へとつながるケースが危惧される。

◎4万人～高校の退学者の数。(令和元年度学校基本調査結果では42,882人)

◎100万人～日本の引きこもり人口。

引きこもりの長期化・高齢化が大きな社会問題となっている。

◎20万人以下～教員免許の取得数が20万人を割り、教員のなり手が少なくなっている。その結果、先生が足りない都道府県や市町村が増えている。

2. 令和の日本型学校教育

令和3年1月に「令和の日本型学校教育」が中央教育審議会から出されたが、キーワードは聞き慣れない横文字ばかりで、中身がよくわからない。

◎教育DX(デジタルトランスフォーメーション)～デジタル技術を活用した教育改革。

◎Well-being(ウェルビーイング)～持続する幸せ(Happiness 瞬間的な幸せ)

◎STEAM(スティアム)～科学(Science)・技術(Technology)・工学(Engineering)・芸術・教養(Art)・数学(Mathematics)の総合学習。

◎ESD～持続可能な開発のための教育

教育改革が官邸主導で進められている。文科省や中教審は上意下達の「下請け」になっている。本来の教育は時間をかけて価値や意義が見出されるが、今はスピードが第一、コロナ禍がそ

れを後押しした。つまり学校現場の議論や準備の時間なしに教育改革が進められている。(英語民間試験や教員免許更新制度が頓挫したのもそれが理由。)

教育には二つの目的がある。個人の人格の完成と国を支える人材の育成。今このバランスが崩れていると私は感じている。

3. 高校の現状

◎中学生の 99%が高校へ。生徒の多様化が加速。

◎4 万人～高校の退学者の数。

多くの困難な課題を抱える生徒は、怠情、自己責任のもとに、校内規定により合理的に排除(退学)されていく。さらに転学も退学以上に多く、全日制から定時制や通信制へ転学するが、卒業に至らない生徒も多く、実態は不明。

こうした高校の中退防止と職業教育が喫緊の課題となっている。高校が社会との最後の接点であり、中退防止が社会のセーフティネットにもなる。

4. 今後に向けて (教育現場から導き出したもの)

最後に磯村講師は、現場における具体的な取り組みとその成果について、二つの高校指導の具体例を示して説明された。(高校名とその取り組み内容については、ここでは省略する。)

最後に結びとして、高校生の作文が紹介され、不登校や学び直しの生徒を支えることが、これからの日本の教育にとっていかに重要なことかを強調された。そして、「今こそ生徒第一の視点で学校教育を見直す必要性を痛感しています。そもそも学校は地域のためにあるものです。その地域で今日の前にいる生徒に何をなすべきか。何ができるか。生徒目線の現場発のボトムアップの学校改革が求められています。」と結ばれた。

(この講演録については講師から詳細な記録を頂いています。必要な方は情報委員会まで。文責・情報委員会)

11. プロバス賛歌

起立、黙唱

12. 閉会挨拶

持田副会長

先月は例会が中止となり、今日は盛りだくさんな

忙しい例会となりました。こうして皆さんと顔を合わせて会合できることの有難さを改めて感じました。

本日はクラブ活動がゆっくりではありますが動き出したことを実感しています。老年研究会、地域奉仕活動としての音楽祭、宇宙の学校の再開等の報告がありました。

卓話も久しぶりに復活しました。磯村元信講師の「教育現場からの発言」は、私たちが普段気づかない現実を強烈なインパクトで教えられました。

11 月には全日協の八王子大会の開催が予定されています。皆さんのご協力を切にお願いいたします。以上で本日の例会を終わります。お疲れ様でした。



◆7 月に誕生日をお祝いしていただきましたが、ハッピーコインを出し忘れていて申し訳ありません。ボケが入ってきたのでは? 濱野 幸雄

◆この子は育たないでしようと言われてから、三度の危機を渡り超えて 90 年経過しました。

竹内 賢治

◆秋! 月や星がきれいに見えるのが楽しみー。

有泉 裕子

◆アマチュア無線技士第三級国家試験合格。昭和 46 年「電話級」資格取得。51 年振りに脳トレのつもりで「電波法規」「無線工学」「モールス符号」を 2 カ月かけて学習、ワンランクアップしました。アマチュア無線の唯一の例外業務である“災害時の非常通信”に協力したいと思います。武田洋一郎

◆新体制になって 2 カ月余り経過しましたが、コロナ禍のために、皆さんと思いっきり対面して話もできず残念。早く元に戻ってほしい。土井 俊玄

◆3 年ぶりにアメリカに住む娘が孫と共に里帰りしました。可愛かった孫も 20 歳の青年となり、私より身体も大きく、ハグされて戸惑いました。

土井 俊玄

◆準備を始めて約 3 年、やっと CD が完成しました。黒須隆一前八王子市長や日本工学院八王子専門学校の先生方、学生さんに大変お世話になりました。又クラブのメンバーでサポーターとして支えてくださいました皆様に感謝をいたします。

シニアダンディーズ

◆10月には「Dr 肥沼フェスタ」「大横保健福祉センターまつり」に出演予定。11月の全日本プロバス協議会第10回総会八王子大会にも出演いたします。メンバー全員健康に留意して練習に励みたいと思います。ご支援よろしくお願い致します。

シニアダンディーズ

◆コロナ感染者の減少がハッキリと見え、先行きが明るく感じられます。よい11月を迎えられることを願っています。馬場 征彦

◆2022全国大会が、だんだん近づいてきました。プロバス会員全員参加で盛り上げましょう。

飯田富美子

◆今年のサッカー天皇杯ベストフォーにJ2 ヴァンフォーレ甲府が進出しました。熱烈なサポーターにとって最高！！準決勝は鹿島とベストを尽くすのみ！！

飯田富美子

◆コロナが終息して秋の八王子大会が盛大に開催できることを心から祈りつつ。田中 信昭

◆「宇宙の学校」の再開、順調にすべりだしました。

下山 邦夫

◆「東京八王子 2022」も2カ月余りに迫りました。準備も佳境に入ってきましたが、会員全員のご協力で全国のプロビアンに喜んでいただけるよう盛り上げていきたいと思ひます。よろしくお願い致します。

一瀬 明

◆全日本プロバス協議会の常任理事会、新旧理事会も終え、11月の総会での承認を待つだけになりました。新体制の構築に向かっていきたいと思ひます。よろしくお願い致します。

一瀬 明

◆本日の例会から卓話が始まります。皆様どうぞよろしく願ひいたします。杉山 友一

◆本日の例会で、会員・研修委員会から「八王子老年研究会」のご案内を申し上げます。ご参加される会員さんを募りますのでどうぞよろしく願ひいたします。杉山 友一

◆コロナが早く終息するように願ひ致します。神様、仏様。野口 浩平

◆例会が再開され皆様の元気な顔を見る事ができうれしいです。高取 和郎

◆いよいよ全日本プロバス協議会の八王子大会が迫ってきました。各プロバスからの参加申込数も順調です。ホストの八王子プロバスは全員参加で温かく

お迎えしたいと思います。笑顔で迎えて Happy だ！！

持田 律三



ミュージアム散歩

プロバスクラブ美術鑑賞会 池田ときえ

東京駅丸の内南口のJPタワーKITTE。昔の局舎の面影を残して新しく改築した商業ビルで、現在の東京中央郵便局が入っています。

5階までの吹き抜けを囲む各回廊には、ショップやレストランが並び、休憩室を兼ねた元局長室も公開されています。

その2階、3階に、「インターメディアテク」があります。日本郵便と東京大学総合研究博物館が協働運営する公共施設で、学術の普及と啓蒙を通じ、社会へ貢献することを使命としています。ご案内文を紹介しします。

「この施設には、東京大学が明治10(1877)年の創学以来、蓄積に蓄積を重ねてきた学術標本が常設されています。展示に用いられているケースやキャビネットは、大方が教育研究の現場で使われていたものです。帝大時代のものが多く、それらの醸し出す重厚な雰囲気、19世紀へタイムスリップしたような気分にとらわれる方もあろうかと思ひます。ですが、われわれの狙いは、博物学の全盛期であった19世紀から高度情報化を実現した21世紀まで、三世にまたがる時代を架橋することにあります。来るべき時代の精神がこの先もお見失ってはならない「世界の眺望」を提示してみせること、それがわれわれの企図するところなのです」

常設展は、いかにも博物館的な骨格標本、剥製、貝殻各種、植物標本、器具道具などがありますが、研究目的ではないので、かなりアートの展示されています。骨格標本は小さな蛙から麒麟まで、恐竜や鯨は上野の科博の領分のようなようです。とぐろを巻いた蛇の骨格を眺めていると自然の妙に感心します。

サンゴの切片標本も美しい。大きく枝を広げた樺のようです。

地上の樹木の枝は、太陽の光をたっぷり受けるために、海中のサンゴの枝はプランクトンをいっぱいキ



俳句同好会便り

ヤッチするため、だそうな。

世界一大きな花と葉っぱもありました。何という名前だっけ。高い展示ケースの上で、南国の鳥が私を見下ろしていたな。

特別展示のひとつ、「からだのかたち 東大医学解剖学掛図」の10数枚のプリントは生々しいが、そのレイアウトは美術作品のようで見とれてしまう。多分有名な医学者と思われる胸像が3体、その下の床に直接置かれていて、顔を寄せ合ってなにやら相談している様子。

これも特別展示、小首をかしげた犬のマークでおなじみ、ビクターの蓄音機コレクションは壮観。数十台が並んでいます。手回しのハンドルは、幼いころに手にした覚えがあります。実演タイムの案内もあったようですが、今回は聞き逃しました、残念。

同じく特別展示「仏像工学 追体験と新解釈」は東京芸術大学の修復科専攻学生によるレプリカや構造体が5体。なかでも東大寺塔頭、中性院弥勒菩薩立像の想定復元模刻は実物さながらの神々しさ、しばらく立ち止まりました。現代の仏師が引き継ぐ伝統工芸の極みです。

まだまだご紹介しきれない展示がたくさん。その時々特別展や展示替えもしていて、訪れるたびに新しい発見があります。そして、日常から離れた静かな時間が流れます。インターメディアテクはそんな贅沢な空間なのです。

東京経由で出かけた時、帰路は東京発3時15分、4時15分の「かいじ」をよく利用します。そんな折に1時間ほど、ここインターメディアテクで別世界の雰囲気を楽しんでいます。みなさんもどうぞお試しあれ！

インターメディアテクのご案内

所在地 東京都千代田区丸の内2-7-2

KITTE 2・3階

JR 東京駅丸の内南口より数分

問合せ 050-5541-8600

入館料 無料

休館日 月曜日

私の一句〈八月の句会から〉

河合 和郎

秋深き隣は何をする人ぞ（芭蕉）の季節がやってきた。芸術の秋でもある。我が句会もようやく賑々しく集まっての句会を開くことができた。さて、その成果は……。

ビル横の小さき社に菊二本 野口 浩平

街なかでよく目にする赤い鳥居の稲荷神社。何でもない光景だが、供えられた菊の花に歌心を。

敗戦日馬なき小屋のむなしさよ 東山 榮

77年前の8月15日。敗戦によりすべてを失った日本。馬まで戦争に駆り出された虚しさが。

信濃路や夜目にも白き蕎麦の花 矢島 一雄

写生句のお手本のような一句。信濃路に咲く白い蕎麦の花が目浮かぶ。中七の措辞がまたいい。

風立ちぬ萩の葉裏の白さかな 池田ときえ

観察眼の行き届いた写生句。万葉集の中で最も多く詠まれたのがこの萩の花。時代は変わっても。

秋暑し夢か深夜の救急車 田中 信昭

まさに今年の季節感を的確に表現。夢路の中に現実の救急車の音が入り込んでくる。寝苦しい。

雲の縁染めて輝く秋入日 下山 邦夫

雲は刻々とその姿かたちを変化させる。秋入日の輝く雲の一瞬間を作者の眼がとらえた。

杖の歩に合はせて歩む萩の径 飯田富美子

老夫婦の散歩の光景か。優しく思いやりあふれる姿に感動する作者。上五の「杖の歩」がいい。

ちびっ子のチアガールや天高し 馬場 征彦

元気はつらつとした子供たちの躍動が伝わってくる一句。チアガールは和製語で女子の応援団。

里ことば覚えて帰る夏休み 河合 和郎

田舎から日焼けした子供たちが元気に帰ってきた。訛りのある里言葉を面白がって話している。

編集後記

教育現場からの発信という卓話を掲載しましたので6頁だてとなりました。情報・内山